

CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム (2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)錦通桑名町ビル	階数	地上13階 地下1階
建設地	名古屋市中区錦二丁目1501、1515	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,900 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,700 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2023年8月28日
敷地面積	2,442 m ²	作成者	
建築面積	1,849 m ²	確認日	2023年8月28日
延床面積	25,811 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+オフサイト手法

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 1
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR のスコア = 4.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギーと環境に配慮したスマートウェルネスオフィスビル。 CASBEEウェルネスオフィス: Sランクの取得。 ZEB Orientedの取得。 		
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 適音、吸音に配慮。 外皮性能、ゾーン別空調、温度・気流差に配慮。 照度500lx。 ☆☆☆☆材料の使用、換気量確保、給気口と排気口の開閉に配慮。 	<h4>Q2 サービス性能</h4> <ul style="list-style-type: none"> 高度通信機器対応。 天井高確保、リフレッシュベース、内装計画に配慮。 内外装防汚仕上、掃除用洗し、共用部からの維持管理に配慮。 耐震性: 基準法1.25倍、内装仕上、設備機器更新等に配慮。 階高、空間、荷重のゆとりを確保。 	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> 外構緑化、屋上緑化。 街並みへの調和、植栽による良好な環境の創出。 ピロティ、退避施設の設定。 排熱機器の屋上への設置。
<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> BPI=0.81、BEI=0.50 Low-E銀2層ガラス、高効率設備機器の採用。 自然換気スリットの設置。 	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> 節水型便器、雨水利用。 リサイクル材の使用、躯体と仕上の容易な分別。 有害物質を含まない材料、フロン・ハロンの回避。 	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> CO₂低排出率、雨水流出抑制、交通負荷低減に配慮。 燃焼機器を使用しない。 光害の抑制。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称) 錦通桑名町ビル

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.4
LR1	エネルギー	4.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.4
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09347058	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009347058
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.04673529	
3. 循環型社会				4.3
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.4



2. 自然共生

評価点 = 3.4



3. 循環型社会

評価点 = 4.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。